

令和 5 年度

第3回 草津PA と連携した滋賀県南部エリア活性化基本構想策定検討会 会議録

■日時：

令和 5 年 5 月 11 日（木）10 時 00 分～12 時 00 分

■場所：

キラリエ草津 3 階 303 会議室+Zoom オンライン

■出席委員：

岡井委員、奥委員、高橋委員、新委員（代理）、河本委員（代理）、棚橋委員、玉置委員、
野原委員（代理）、池田委員、中島委員、越後委員（代理）、北川委員（代理）、南堀委員
（代理）、小島委員、金森委員、松尾委員、一浦委員

■欠席委員：

塩見委員、北村委員、野村委員、吉川委員、田中委員

■事務局：

建設部	東岡技監、門田副部長
都市計画部	杉田副部長
都市地域戦略課	高谷課長、西田参事、福留参事、寺尾専門員、山本主査、坂主任

■傍聴者：

1 名

1. 開会

【事務局】

<事務局より挨拶>

会議の公開について異議なし

2. 委員紹介

【事務局】

<委員の紹介>

3. 第 1 回検討会での意見、対応方針

【事務局】

<資料について説明>

<特に意見なし>

4. 市民アンケートの実施結果について

【事務局】

<資料について説明>

<特に意見なし>

5. 草津PAと連携した滋賀県南部エリア活性化基本構想（案）について

【事務局】

<資料について説明>

【A委員】

にぎわいについて、びわこ文化公園都市への期待の高さについては理解するが、構想を進めていく上で非常に重要なびわこ文化公園について、滋賀県のホームページでは、Park-PFIの対象範囲が限定的で、その魅力が具体的に示されていない。Park-PFIで何を目指しているのか、選定委員会ではどのような意見があり、どのような評価がなされたのかを共有し、議論を深めていくべき。開示できる範囲でお教えいただき、開示できないものも事務局内では共有していただきたい。

防災については、市民アンケートの「必要だと思う機能」にも防災の項目はなく、全体的に防災の色が薄い。もう少し議論を深めたい。

交通について、魅力が高まれば交通量も増える。山手幹線の延伸や平野南笠線の事業予定について記載されているが、にぎわいづくりの事業だけ動いていくようなことはないようにしたい。道路整備が現状どこまで進んでいるのかはお教えいただきたい。今後、魅力アップによってどの程度需要が増えるのかという調査がされ、幅員や容量についても決まっていくことと思うが、道路整備実施の予定を記載するのみでよいのか。

【事務局】

滋賀県のびわこ文化公園都市将来ビジョンの改定においても、草津PAと連携した拠点整備について明確に記載いただいている。ソフト的なところではコミュニティ通貨「ビワコ」という取組もされており、Park-PFIをはじめとしてエリアマネジメントなどでにぎわいづくりをしていくと承知している。今後10年のビジョンについては事務局では把握していないところもある。構想の柱としてはびわこ文化公園での取組は重要であり、拠点は連携して一緒に作っていくという立場だと思う。

【B委員】

びわこ文化公園都市将来ビジョンの改定を行い、市民アンケートでも意見があったとお

り、交通、情報発信の問題を整理した。それに対し「プラットフォーム」という形で「理解の共有」、「移動の自由」というのを掲げた。これらを優先的に解決していきたい。びわこ文化公園都市は様々な施設があるが、専門的な領域の施設が多いため横の連携ができていないという点があり、横繋ぎができるような新たな主体としてバス事業者や滋賀アリーナの指定管理者、滋賀レイクス、大型商業施設であるフォレオ等に入っていただき、会議をスタートしたところ。コミュニティ通貨「ビワコ」の導入や交通課題等について議論していくことにしている。基本構想とは方向性は同じと考えている。

Park-PFI の詳細な内容については当課では承知していない。

【C委員】

びわこ文化公園は都市公園として整備しており、その中で Park-PFI を県内初めて導入した。公園内での飲食や物販を許容する代わりに公園施設を整備、管理していただく制度であり、4 月に飲食店がオープンした。公園だけでびわこ文化公園都市エリア全域の魅力アップは難しいため、公園内施設（図書館や美術館）と連携して、子どもが外で本を読めるようにするなどの連携の取組を考えている。

【D委員】

防災や交通に関してはいかがであるか。特に防災については、物資だけでなく人のための避難場所になっているかどうかともご教示頂きたい。

【事務局】

防災の取組に関しては少し突然感があるように思う。市民アンケートでは、防災機能に関しては約 8 割の方が必要と答えているが、基本構想（案）の中では示せていない。まずは市民の声はニーズとしてしっかり示しながら、防災の取組が必要な理由を肉付けしていきたい。草津 PA 周辺は、草津 PA（防災拠点自動車駐車場に指定）や立命館大学（物資の拠点として地域防災計画に位置付け）等、物資の拠点となっているところはあるが、避難場所としては位置づけが弱い。

原子力災害等の際に広域から高速道路で避難しやすい場所であり、病院や滋賀ダイハツアリーナ等収容できる場所も多い。避難者という人の部分も位置付けることによって場所のポテンシャルが発揮できないかと考えている。今回の構想では、そういったポテンシャルがある場所だということを認識し、具体的な機能については基本計画の中で検討したい。

交通については、滋賀県の「道路整備アクションプログラム 2023」に平野南笠線の今後 5 ヶ年での着手が位置付けられている。今後、道路整備に先行して草津 PA と連携した拠点整備が進むという懸念については、拠点への導入機能と平野南笠線の整備イメージとの共有を図っていきながら基本計画への位置付けを検討したい。拠点整備にあたっては、まずは公共交通に力を入れながらも、それだけで渋滞緩和はすぐには難しいと思われるので、平野南笠線というハード整備も含め、抜本的な解決に向けて努力したい。

【E委員】

「道路整備アクションプログラム 2023」は、今後 10 年の道路整備方針を示すもので、

その中に平野南笠線が前期（令和5年～9年の5ヵ年）で着手するものとして新たに記載された。今後必要な調査を関係機関と調整して進めていく。山手幹線は土木事務所のほうで施工中である。

【A委員】

今後基本計画を作る際にお願いしたいことが3点見えてきた。ひとつは基本構想では方向性を示したが、計画の段階では国・県・市の役割分担を整理していくことが重要。びわこ文化公園都市について、滋賀県の中でも多数のセクションが関係しているために役割が不明確になりやすい。エリアの活性化のために国・県・市がどのような役割分担と機能が必要かという整理が必要。二つ目は、構想の中では「やるべきこと」と「やったほうがよいこと」が混在している。優先順位を整理したほうがよいのではないか。例えば、域内回遊の促進は重要だが、渋滞緩和がなされないと難しいと思う。基本計画の中では、「やったほうがよいこと」は外すということが重要ではないか。三つ目は、取りまとめの根拠についてであるが、市民アンケート結果は一部矛盾するような結果もあり、あまり判断の根拠にしすぎるのはいかがなものかと思う。例えば、防災機能についてのみの設問になっているにもかかわらず、防災機能のニーズが高い、というのは成立していない。県や市の知見からしてこのような機能が必要だと言い切ったほうが良いのではないか。基本計画の段階では整理をされるとよい。

【F委員】

基本構想（案）の中で、公共交通のアクセスが不便だという話があるが、例えば瀬田駅から大学病院までのバスは平日日中で4本/時が確保され、利便性が悪いというわけではないと思う。何をもって利便性を向上するのかを明確にしたほうが良いのではないか。

【D委員】

駅と施設を行き来する場合は利便性が悪いとは言えないと思うが、びわこ文化都市内での移動の際に手段がないといったことはあり得るため、エリアとしての回遊性を高めていくことの必要性はあると思われる。それは民間のバス事業者だけで対処する問題ではなく、市として考えていくべきことだと思う。事業者間での協力・調整はあり得るが、市の支援が不可欠。利用者からすれば誰が運営しているかは気にならない。

びわこ文化公園都市将来ビジョンの「プラットフォーム」で「移動の自由」とあるが、エリア内での周遊ができるようなバスだけでは不十分で、シェアサイクルやキックボードなども含めて検討していくことも必要になってくるのかなと思う。

【事務局】

ここで、本日御欠席の委員から事前にご意見をいただいているので紹介する。

基本構想では、草津市だけでなく大津市、滋賀県など各関係機関が連携していることをより明確に示していくほうがよいのでは。

【事務局】

基本構想（案）の中で策定体制を示しているが、文言を調整したい。

【G委員】

市民アンケートについては現状を整理する点では有意義であった。ただし、対象には学生や子育て世代など様々な方が混じっており、もう少し各層での傾向の違いなどをクロス集計的に洗い出せたら良い。その上で、今回の計画がこういった層にこういった魅力を訴えかけて行くのかを示していけたらよい。今回実施したアンケートはあくまで現状・課題の認識にとどまっているが、さらに深掘りして「こんな施設があったらどうですか」といった聞き方をすると答えやすくなるのかと思う。

そのためには、こういった施設やエリアを目指していくのかをもっと具体化していく必要がある。現状ではこういったものがイメージされているか共有しにくい。パースやCG等といったものを活用して具体的なイメージをもって聞いていけると、アンケートだけでなく会議の場でもより具体的なアイデアが出てくるのではないかな。

参考資料に学生ワークショップの結果も示されており、多様で面白いアイデアが出ているが、学生ワークショップの位置づけはどうなっているのか。活用するのか実施しただけなのか。実施しただけではもったいないので、ぜひ活用して進めていただけるとよいと思う。

【事務局】

市民アンケート結果をクロス集計しながらターゲットを明確にという意見だったが、基本計画の検討を進めていく中で、こういった方に使っていただけるかということの参考として取っていきたいと思っている。

市民アンケートでは、びわこ文化公園都市周辺としてのPRが弱いという課題が見られたが、ターゲット層に対する施設としては、新たな拠点ですべてを解決しようとするのではなく、びわこ文化公園や周辺施設を含めてどう解決していくのかを考えたい。その中で、ターゲット層を絞ったマーケティングはしていきたい。

学生ワークショップについても実施しただけではなく、既にエリアを利用されている方をどのように取り込んで快適な環境を提供するかという観点で参考にしながら、事業としての成立性を含めて具体化していきたい。

【D委員】

せっかく市民アンケートや学生ワークショップをしているのでその結果をぜひ反映したい。

【E委員】

基本構想（案）に「駅および周辺道路に集中する交通量の削減・転換」とあるが、どのような手法によって実現するのか。

【事務局】

周辺住宅街から南草津駅や瀬田駅を利用して京阪神に通勤している方が、駐車場や送迎の利用で駅周辺の道路を利用することで混雑している。そこで、短期的には、高速バス停留所を設け、駅を利用せず高速バスに乗っていただくことで総量を減らすということを

目指している。長期的には道路整備も必要かと思う。

【C委員】

基本計画策定の際の参考で良いと思うが、びわこ文化公園都市を中心とした滋賀県南部エリアの活性化としているが、中身はびわこ文化公園都市の活性化となっている。びわこ文化公園都市だけが活性化するのではなく、周辺エリア全体の活性化も併せて検討できればと思う。

【D委員】

渋滞の問題について、エリアから京阪神への通勤通学はJRになるので、駅に向かう道はどうしても混雑してしまう。さらに、駅前広場は立命館大学に向かう学生もあり混雑がひどい。草津PAが交通拠点になるのであれば、京阪神へのアクセスの選択肢が増え、リダンダンシーの観点でも有効である。しかし、その草津PAまでどうやって行くのか、というところをしっかりとしないと利用がされにくい。交通拠点にする際には、駅との間だけでなくエリア内周遊ができるようなネットワークが必要になってくる。また、料金設定や乗り換え時間等の問題もあり、利用者目線で乗りやすい交通ネットワークを市のほうで検討していただいて、必要に応じて事業者との連携も図っていく観点をお願いしたい。

どういったターゲットに来てほしいのかということを意識して、訪れたい工夫をしながら戦略的に整備していくことが重要。次にそこに行くまでの足については、移動の自由を実現していくにあたって、公共サービスの活用や、乗りたいなと思える乗り物にするなどが考えられる。路線バスネットワーク全体の再構築も必要かもしれない。事業者を超えた連携をお願いしたい。

6. 今後のスケジュールについて

【事務局】

<今後のスケジュールについて説明>

7. 閉会

【事務局】

本日の議事は以上とさせていただきます。本日は、活発な御協議をいただき、誠にありがとうございました。皆様からいただきました御意見を踏まえまして、パブリックコメントに向けて、引き続き作業を進めてまいりたいと思います。引き続きご指導ご協力のほどよろしくお願いいたします。

以上